

## 4 教科等の学びがつながる

- 1 かわさきGIGAスクール構想 ステップ3  
社会課題の解決や一人一人の夢の実現に向けて
- 2 社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメント
- 3 各教科等の学びが他教科等や生活につながる端末活用  
(総合的な学習の時間 事例)
- 4 デジタル教科書を使った学び



## 4-1 かわさきGIGAスクール構想 ステップ3

夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く

自主・自立

かわさき  
教育プラン

共生・協働

かわさきGIGAスクール構想 ステップ3

各教科等の学びが、他教科等や生活につながることで、  
社会課題の解決や一人一人の夢の実現に生かす



ステップ3では、社会課題の解決や一人一人の夢の実現に向けて、子どもたちがGIGA端末を主体的に活用し、教科等で学んだことをつなげ、様々な人と共に学び合うことを大切にしていきます。

学校教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントについては、次のスライドで！



# 4-2 社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメント

STEP 3

社会課題の解決や一人一人の夢の実現に活かす

川崎市が目指す教育

地域や児童・生徒の実態

学校教育目標等

目指す子ども像

教職員の願い

地域・保護者の願い

カリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間（教科横断的、探究的な学習）

社会

数学

理科

音楽

美術

保体

技・家

英語

特活

道徳

国語（言語能力育成の要）

教育課程外の活動

各教科等の学びが、他教科等や生活につながる

GIGA端末の活用

教科横断的な視点

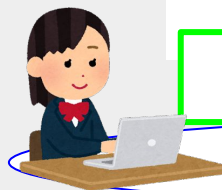
教育課程の実施状況の評価

人的または物的な体制確保

教科横断的な視点

教育課程の実施状況の評価

人的または物的な体制確保



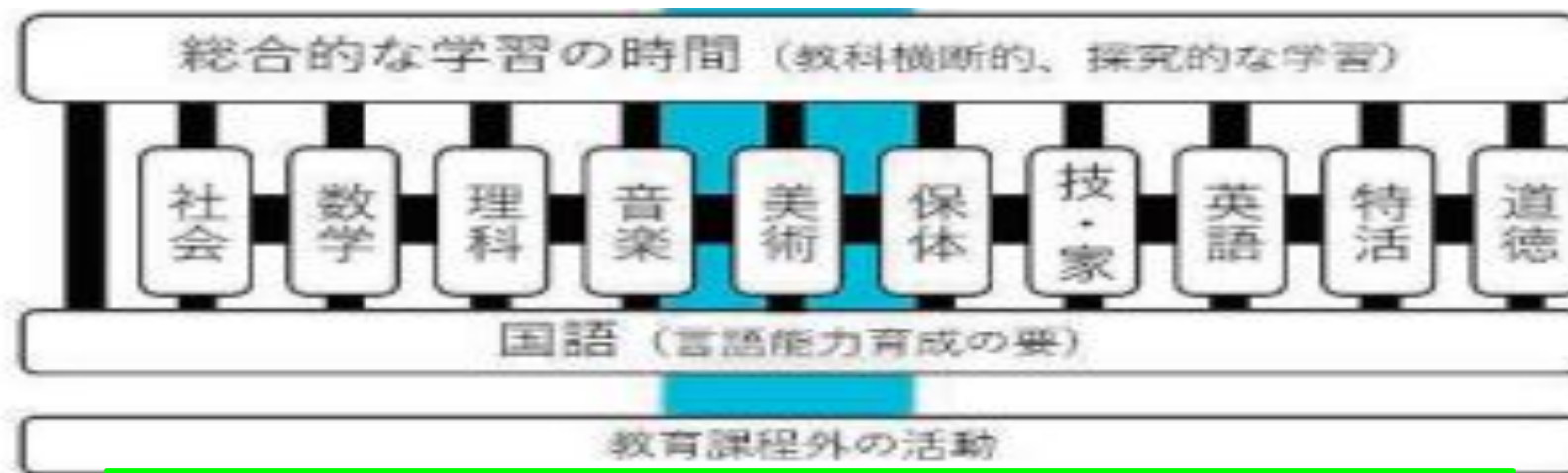
ステップ2 既習や他者とつながることで、主体的・対話的で深い学びの視点から授業が改善でき資質・能力をより確実に育成する

## 4-3-1 教科等の学びが他教科等や生活につながるとは

【例えば、総合的な学習の時間で考えると・・・】

この時間に行われる学習では、教科等の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科等の身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくこと

(小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編P11)



各教科等の学びが、他教科等や生活につながる

GIGA端末を活用することで、各教科等の学びが、他教科等や生活とつながりやすくなります。

必要なことは・・・

○探究する価値のある課題の設定

○探究的な学習を支えるカリキュラム・マネジメント

# GIGAスクール構想のステップ3の実現について 総合的な学習の時間を例に考えてみましょう！

～総合的な学習の時間～

単元名「地域の魅力大発見！」

対象学年：小学校6年～中学校



目的意識のたせ方や学習対象、魅力を伝える対象によって、小3～5年でも実践することができます。その際には、児童の実態に合った単元目標を設定しましょう。

## 4-3-3 地域の魅力を探究課題とした例

単元目標を常に意識して単元をつくっていきましょう。特に、総合的な学習の時間では課題の設定において**子どもの「思い」「願い」「必要感」「切実感」**を大切にします。それによって、子どもたちは課題の解決に必要な活動において、**それぞれの思考に合わせて主体的・協働的にGIGA端末の活用**を考えていくようになります。



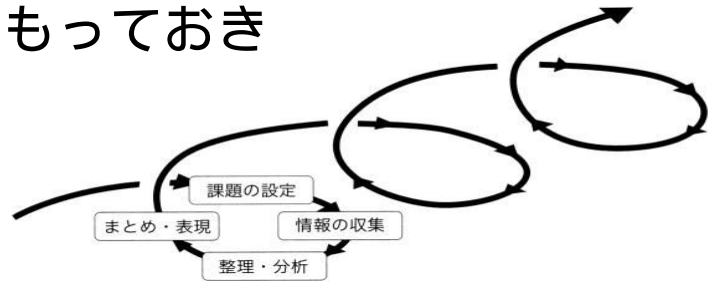
### 単元目標

地域の魅力を調べたり、それを発信したりする活動を通して**（学習活動）**、自分たちの住む地域には様々な魅力があり、その魅力を支える人々の思いや魅力を受け継いでいくための取組があることを知り**（知識及び技能）**、地域の魅力を伝えるために自分たちにできることを考える**（思考力, 判断力, 表現力等）**とともに、地域の一員として地域に愛着をもって行動することができる**（学びに向かう力, 人間性等）**ようにする。

# 4-3-4 学習の見通し・振り返りとGIGA端末の活用

## 教師による学習活動の見通し

単元構想の際には、単元目標に沿ってどのような体験活動を設定し、どのような話し合いを行い、どのように考えを整理・分析し、どのようにしてまとめ・表現し発信していくかといった子どもの具体的な姿を想定し、学習の見通しをもっておきましょう。



## 学習の振り返り

学習の振り返りを行う際には、評価規準の各観点について期待される子どもの姿が、単元のどの場面でのどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかを想定し、単元の中で活動を振り返る機会を適切に設けることが重要です。



## ☆GIGA端末の活用☆

学びを見取る際に、GIGA端末を活用することで、これまで十分に見取れなかった子どもの学びを見取りやすくなります。例えば、グループで共同作業したGoogle JamboardやGoogleスライドのデータを蓄積したり、振り返りをスプレッドシートで記録したりすることで、子どもの変容を捉えることができます。また、紙媒体を使用した際には写真データとして残しておくことも可能です。子どもたちにとってもこれらの記録は学びの足跡となり、学習に生かされます。



## 4-3-5 探究的な学習を支えるカリキュラム・マネジメント

目指す姿は・・・

探究的な学びのプロセスの中で課題解決に向けて、必要感をもって**目的や状況に応じて選択・活用**する子どもの姿です。

教師としては、その状況に応じて、単元目標に向かう中で**子どもの思考や学びの文脈に合わせて指導計画を変更していく**ことも必要になります。単元構成を柔軟に考えていくことが大切です。

学校行事（周年行事や学習発表の場等）を**子どもの必要感に応じて学びを表現できる場**として位置付ける。

情報機器や情報通信ネットワークの環境整備（子どもが**目的や状況に応じて活用**する）

**他教科等との関連**を図り、年間の単元配列を考える。

学習活動に必要な**人的・物的な資源**を単元の中で効果的に位置付ける。





## 4-3-6 地域の魅力を探究課題とした例

# 「地域の魅力大発見！」 単元構想

単元目標

探究活動 2：地域の魅力を発信しよう

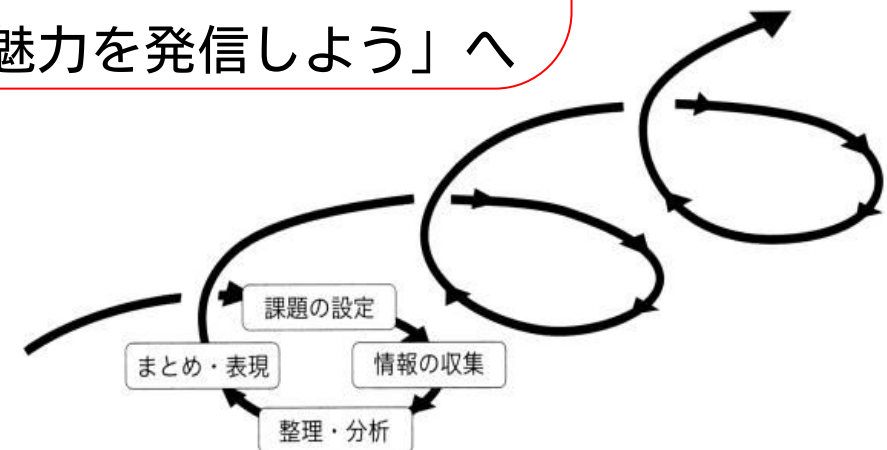
- ・魅力を発信する方法について話し合う
- ブランドメッセージ、マスコットキャラクター、地域のマーク、ポスター、テーマソング、CMなどの作成

探究活動 1：地域の魅力について調べよう

- ・地域の魅力を探すフィールドワーク
  - ・地域の魅力について調べたことを情報共有
  - ・他の魅力もないか再調査（魅力を支える人たちとの出会い）
  - ・調べた情報を学区地図にまとめる
  - ・保護者に向けてアンケートを実施
- 魅力をあまり知らない！ →探究活動 2 「地域の魅力を発信しよう」へ

単元の導入：周年行事に向けて、地域の魅力を発信しよう

- ・地域の魅力について話し合う
  - ・地域の方に魅力について聞く
- 2つの活動のいずれから課題設定する
- 探究活動 1 「地域の魅力について調べよう」へ



## 4-3-7 主体的な探究活動につながる課題の設定①

### 地域の方からオンラインで話を聞く

実際に人やものに触れるという体験活動は、子どもの思考を促す上でとても重要です。その際には、事前に地域の方等と十分な打ち合わせをして、**活動のねらいを共有しておきましょう。**



### 学校行事との関連

本單元では、周年行事等と関連させることで、子どもの中で、地域の魅力を知りたい、伝えたいという必要感につながるようにします。各学校の特色に応じて、子どもの中で**課題が現実的に必要感のあるもの**になる工夫があるといいです。

単元の導入：周年行事に向けて、地域の魅力を発信しよう

- ・地域の魅力について話し合う
- ・地域の方に魅力について聞く

→自分と地域の方の魅力のずれから課題設定をする

### 総合的な学習の時間における課題設定のポイント

学習指導要領解説には、「課題設定において、学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫する必要がある。」と書かれています。その際、これまでの児童生徒との「**ずれ**」や「**隔たり**」をつくったり、対象への「**憧れ**」や「**可能性**」を感じさせたりすることで、課題意識につながります。



## 4-3-8 課題設定場面のイメージ

地域の方からオンラインで話を聞く

開校当時から地域のことをよく知る方に話を聞くと、子どもが知らない地域の魅力や地域の方の思いに触れることができます。こうした機会を、**課題設定の際に効果的に活用**します。



あこがれ  
可能性

課題

現実の状況

自分たちの住む地域の魅力についてあまり知らない

地域の魅力をもっと見つけたい。それをみんなに知らせたい。

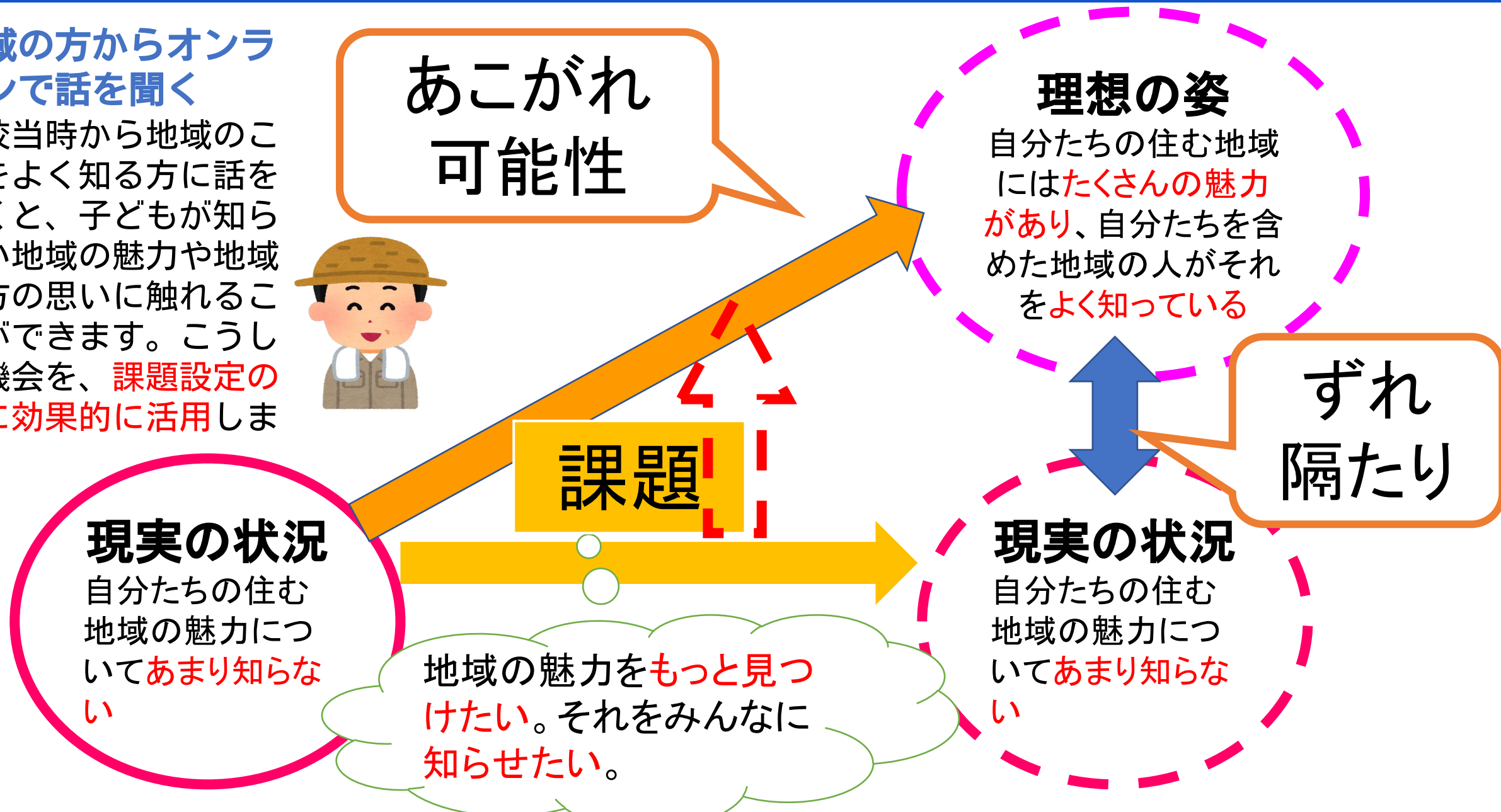
理想の姿

自分たちの住む地域には**たくさんの魅力**があり、自分たちを含めた地域の人がそれをよく知っている

ずれ  
隔たり

現実の状況

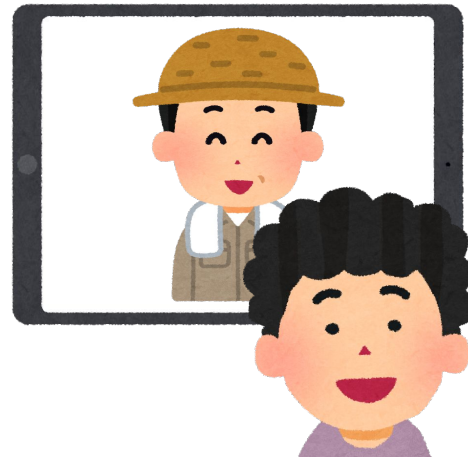
自分たちの住む地域の魅力についてあまり知らない



## 4-3-9 課題設定の場面での効果的なGIGA端末活用

### オンラインや映像資料を活用した導入

様々な事情等により実際に話を聞けない場合、オンラインでつないで会話をすることができます。また、映像や資料を提示することもできます。GIGA端末を効果的に活用することで、子どもの思考とのずれを生み出します。



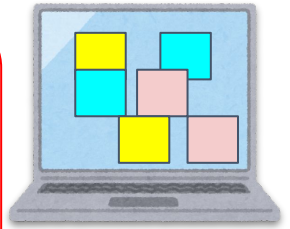
### GoogleJamboardで地域の魅力について話し合う

自分の考えを共有する際に、Google Jamboardを活用することができます。話し合ったことをクラウド上に記録として残しておくことで、学習が進んだ後に自分たちにとって魅力の概念がどのように変容してきたかを振り返ることもできます。

単元の導入：周年行事に向けて、地域の魅力を発信しよう

- ・地域の魅力について話し合う
- ・地域の方に魅力について聞く

→自分と地域の方の魅力のずれから課題設定する



### ☆GIGA端末の活用☆

ステップ3では、GIGA端末を子どもが目的や場面に応じて適切に選択・活用できるようにすることが求められます。課題設定の際に、GIGA端末を活用することで、コロナ禍で体験活動ができない場合でも課題を自分ごととして捉えやすくなります。課題に必要感や切実感が生まれると、子どもは授業の時間に限らず情報を収集するようになり、生活とのつながりも生まれてきます。



# 4-3-10 課題の解決に向けた情報収集と整理・分析

## GIGA端末で情報収集する

自分は何を知りたくて、**どういう課題を解決するために情報を集めているのか**が明確になっていると、GIGA端末を使う必要感につながります。



## 情報を蓄積する

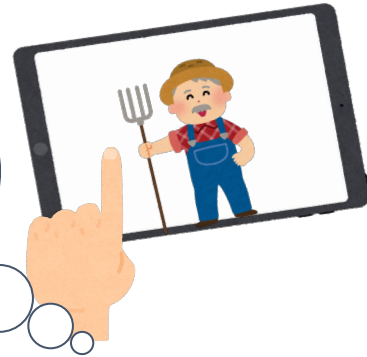
フィールドワークで得た情報を写真データで残したり、インタビュー動画を残したりすることで、**必要な情報をいつでも取り出すことができます**。フォルダに整理することで、必要に応じて情報を活用することができます。



探究活動1：地域の魅力について調べよう

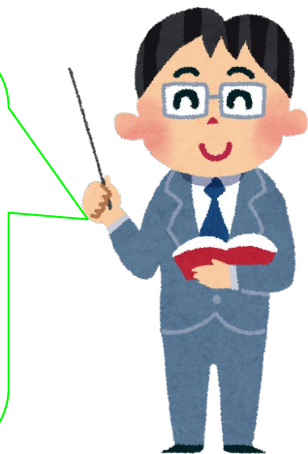
- ・地域の魅力を探すフィールドワーク
- ・地域の魅力について調べたことを情報共有
- ・他の魅力もないか再調査
- ・調べた情報を学区地図にまとめる
- ・保護者に向けてアンケートを実施

足りない情報は、放課後にも調べに行ってみようかな。



## 情報収集における落とし穴

ICTを活用した情報収集は、「いつでも」「誰でも」「どこでも」「瞬時に」多様な情報を得たり発信したりできるよさがあります。一方で、**その情報を丸写しすれば、児童生徒は学習活動を終えた気になってしまう**ことが危惧されるという点も指摘されています。常に調べる目的を意識させるなどして、**目的や場面に応じてどのように活用するか、適切な選択・判断についても探究的な学習を通して習得できるように**しましょう。



# 4-3-11 情報収集、整理・分析の場面での効果的なGIGA端末活用

## 社会科との関連

単元の中で地域にある史跡や寺社などを調べる際に、社会科における歴史の学習と関連付けることで、実感を伴った学びとなります。その際に、**社会科でまとめた資料や、話し合いの際に活用したGoogle JamboardをGIGA端末のフォルダから検索して利用**できます。



### 探究活動 1：地域の魅力について調べよう

- ・地域の魅力を探すフィールドワーク
- ・地域の魅力について調べたことを情報共有
- ・他の魅力もないか再調査
- ・調べた情報を学区地図にまとめる
- ・保護者に向けてアンケートを実施



## 学級活動での学びを活かす

例えば、高学年の学級活動（2）では問題意識が高まるよう、自分たちで事前に題材に合わせたアンケート調査をすることがあります。この経験を生かして、総合でアンケートを作成するときには、「どんな情報を得たいか」という**目的意識をもって、質問事項について話し合うことが大切です**。その際に、学級活動（2）で活用した**Google フォームの使い方を生かす**ことができます。

## ☆GIGA端末の活用☆

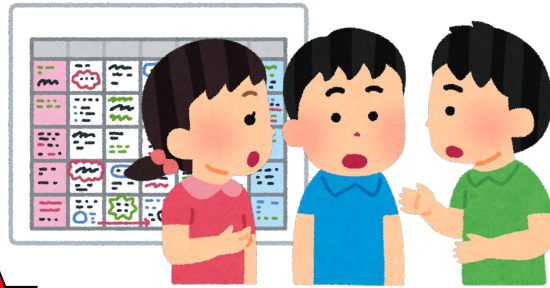
情報を収集したり整理・分析したりする際に、各教科等で使用したGoogle JamboardやGoogleフォーム等を活用することができます。**教科等横断的な視点で、情報をフォルダなどに適切に整理して蓄積すると、必要に応じて活用しやすくなります**。



## 4-3-12 教育課程の実施状況の評価とGIGA端末の活用①（学びを見直し、学習を調整する）

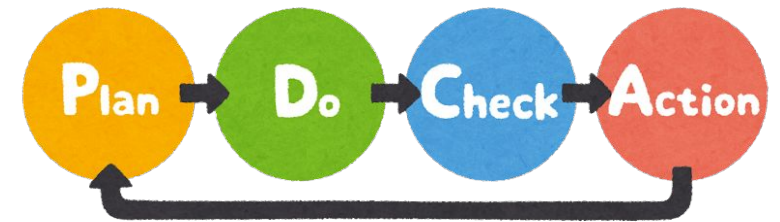
### 目的に沿って振り返ることで学習を調整する

単元の途中で子どもが**自己の学習を振り返る場面を意図的に設定**します。その際に、振り返りをスプレッドシートで記録したり、グループで共同作業したGoogle JamboardやGoogleスライドなどの蓄積したデータを活用したりすると「課題を解決するためには、まだ情報が足りないな」「まだこれできていないから次の時間にやる必要があるな」といった**自己の学習を調整する姿**につながります。



### 単元構想を見直し、再構成する

子どもの学びの文脈や思考の流れによって、教師は単元構想を見直し、再構成していくことが望ましいです。子どもの学びを蓄積したデータを見ることで、**子どもの思考に合わせて体験活動やゲストティーチャーとの出会いを設定したり、活動内容に合わせて時間を調整したりするなど、柔軟に単元構想を練り直すこともできます。**



### ☆GIGA端末の活用☆

学びを見取る際に、GIGA端末を活用することで、グループでの話合いの内容など、これまで十分に見取れなかった子どもの学びを見取りやすくなります。これらのデータをもとにして、**子どもの思考や学びの文脈を教師が捉え、単元構成を見直したり、活動の見通しを練り直したりすることにつながります。**



# 4-3-13 伝える必要感に応じたまとめ・表現

## 国語科との関連

地域の魅力を伝えるブランドメッセージづくりの際には、国語科で身に付けた表現力が生かされます。また、**提案文を書く単元を「まとめ・表現」の時期に入れ替えて**、魅力を発信するために自分たちにできることを考えることもできます。

## 図画工作科との関連

マスコットキャラクターづくりでは、図画工作科で身に付けた表現力が生かされます。また、総合で見つけた地域の魅力を、**風景画を描く題材にすることで、風景がへの思いをふくらませる**ことにもつながります。

## 音楽科との関連

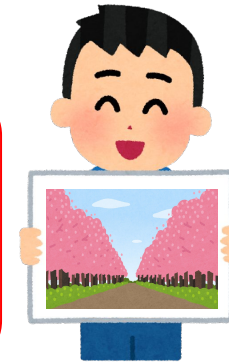
テーマソングをつくるという流れになれば、**リズムをつなげたり重ねたり、グループでまとまりのある旋律をつくる**といった音楽科で身に付けた工夫して表現する力も生かされます。

探究活動2：地域の魅力を発信しよう

・魅力を発信する方法について話し合う

→ブランドメッセージ、マスコットキャラクター、地域のマーク、ポスター、テーマソング、CMなどの作成

まとめ・表現において大切なポイントは、伝えるための具体的な方法を目的に応じて選択して使えるようにすることです。相手意識・目的意識を明確にして**思考させる場面をつくりましょう**。それによって**どのようなツールを活用して発表（発信）するとよいかということ**を子どもが考え、目的に応じて選択し、活用する姿につながります。





# 4-3-14 まとめ・表現の場面での効果的なGIGA端末活用

## 国語科との関連で

ブランドメッセージをつくる際に、それぞれが考えた魅力を表す言葉をテキストマイニングを使って分析すると、最も伝えたいことが視覚化されます。また、提案文を書く際にもGIGA端末を活用することで互いの提案を見合うことができます。



## 図画工作科との関連で

マスコットキャラクターをつくる際には、GIGA端末のchrome描画キャンパスを活用することで、データとして残すことができます。また、風景画の題材と関連させる場合は、写真データにすると、文字を入れてポスターづくりに活用することもできます。

## 音楽科との関連で

テーマソングをつくる際には、録音したデータを日付を記してGIGA端末のドライブフォルダに保存することで、作成の経過がわかり、より工夫して創作活動をする姿につながります。

### 探究活動2：地域の魅力を発信しよう

- ・魅力を発信する方法について話し合う
- ブランドメッセージ、マスコットキャラクター、地域のマーク、ポスター、テーマソング、CMなどの作成

## ☆GIGA端末の活用☆

発信したい内容や発信する目的に応じて、子どもが方法を考えたり活用するツールを選択したりすることができるようにしましょう。その際に、GIGA端末を活用することによって、子どもの表現の幅が広がります。



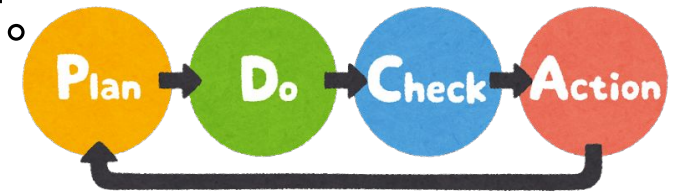
## 4-3-15 教育課程の実施状況の評価とGIGA端末の活用②（単元の振り返り）

### 単元目標に達することができたか

まず単元目標に照らし合わせたときに、**子どもが目標を達成することができたかどうか**を評価します。その際に、GIGA端末に蓄積してきたデータを振り返ることで、実施状況を見取りやすくなります。総合的な学習の時間用のクラスルームを作成しデータを管理したり、フォルダごとに整理したりすると、次年度以降に単元をつくる際にも活用できます。

### 単元構想・他教科等の関連はどうだったか

教育課程の実施状況の評価をする際には、**単元の流れや外部講師・体験活動を入れるタイミングなどの単元構想がどうだったか、他教科等との関連を含む単元配列はどうだったか、データの利活用はどうだったかなど**を振り返ります。話し合った内容をGoogle Jamboard等で記録し、クラスルームに残しておくことで、次年度以降の単元づくりにも活用できます。詳しくは次のページで紹介します。



### ☆GIGA端末の活用☆

教育課程の実施状況の評価する際には、**単元目標に達することができたか、単元構想や他教科等との関連を含む単元配列はどうだったかなど**を話し合いましょう。GIGA端末にこれまで蓄積したデータを振り返ることで、教育課程の実施状況の評価がしやすくなります。



## 4-3-16 教育課程の実施状況の評価とGIGA端末の活用③（学校として）

### 学校として、次年度に向けて教育課程の実施状況の評価する

学習指導要領等の趣旨や枠組みを生かしながら、各学校の地域の実情や児童生徒の姿と指導内容を見比べ、関連付けながら、効果的な年間指導計画等の在り方や、授業時間や週時程の在り方等について、校内研修等を通じて研究を重ねていくことも重要である。（小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編P128）

年間の教育課程の振り返りを全教職員で評価し、成果や課題を共有することで、次年度のはじめに総合的な学習の時間の計画を立てる際に、

- 担当する学年の児童生徒が、前年度にどのような活動を行ったのか
- 担当する学年のカリキュラムは今年度の子どもの実態に合っているか
- 連携している外部講師をどのように生かせるか

などの視点で生かすことができます。

### ☆GIGA端末の活用☆

学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組む際にも、GIGA端末を活用することができます。例えば、校内研修の際にGoogle Jamboardで他学年の取組を互いに見合ったり、Googleスプレッドシートで外部講師や活用できる場所等の情報を共有したりすることが考えられます。総合的な学習の時間のクラスルームを作って、情報を共有するのもいいですね。



# 4-4 デジタル教科書を使った学び

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた教科書・教材・ソフトウェアの在り方が検討されています。

## デジタル教科書の導入スケジュール(予定)

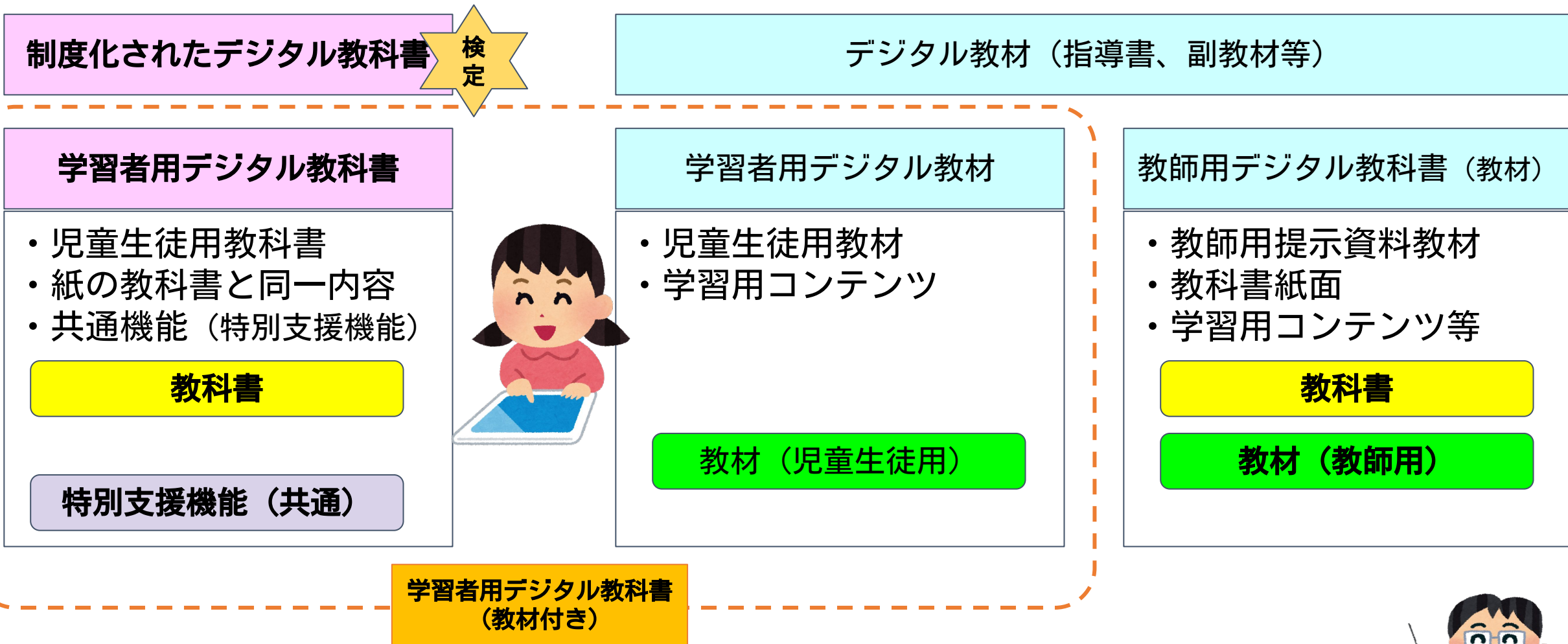
2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)
新時代の学びを支える先端技術活用推進方策 全国学力・学習状況調査 中学校英語調査 (「話すこと」調査をCBTで実施) 学習者用デジタル教科書の制度化 ICT機器等の標準仕様の提示	小学校デジタル教科書の導入拡大 小学校 新学習指導要領の実施 (プログラミング教育の必修化など) 教育データの標準化	中学校デジタル教科書の導入拡大 中学校 新学習指導要領の実施 (技術・家庭科(技術分野)でプログラミングの 内容充実など) デジタル教科書の在り方について方向性の提示 先端技術活用ガイドラインの策定	高等学校デジタル教科書の導入拡大 高等学校 新学習指導要領(年次進行) (情報1の必修化など)	全国学力・学習状況調査 中学校英語調査 (高速通信ネットワークなどICT環境の整備状況を踏まえ つつ、「話すこと」調査のCBTでの実施を検討) 遠隔教育を実施したいが、できていない学校をゼロに	小学校 改訂教科書使用開始 (改訂を契機としたデジタル教科書の本格導入)
GIGAスクール構想 (校内ネットワーク、小中学校の学習者用端末 3人に2台分など)		※ 遠隔教育の普及、防災・地域活性化にも貢献		※ 新たな「教育ICT化環境整備計画」の策定	
教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(学習者用端末3人に1台分など)					
遠隔・オンライン教育、デジタル教科書・教材、統合型校務支援システム、学習ログの活用促進、 学習の定着度合いを把握する手段として、CBTをはじめとしたICTの活用促進 これらに必要な教員養成・研修や指導体制の充実、専門的人材の確保、外部人材の参画促進					

- GIGAスクール構想の下で、学校における「デジタル教材」や「学習支援ソフトウェア」等の導入が加速しています。
- 学習者用デジタル教科書により、デジタル教材等との接続や連携強化を図ることで、学びの充実につながります。また、子ども自身が共通機能を活用することで、自分にあった最適な使い方を選ぶことができます。



平成のデジタル教科書(教師用デジタル教材)は、教師が提示することを目的としたものでした。令和のデジタル教科書(学習者用デジタル教科書)は、子どもが使い、学びを充実させるものです。新たな授業形態が考えられます。

# 4-4-1 デジタル教科書の分類



実証事業では「**学習者用デジタル教科書 (教材付き)**」が配付されています。  
本格的導入時は、「**学習者用デジタル教科書**」と紙の教科書が配付される見通しです。



# 4-4-2 学習者用デジタル教科書の共通機能

学習者用デジタル教科書には6つの共通機能があります。

拡大

見たい範囲を拡大して見ることができます。

書き込み

ペンやマーカーで自由に書き込むことができます。

保存

書き込んだ内容を保存し、改めて表示することができます。

読み上げ

教科書の文を、機械音声で読み上げることができます。

色の変更

背景色、文字色を変えることができます。

ルビ

ルビを振ることができます。

1 拡大



教科書を拡大して表示することができます。

2 書き込み



教科書にペンやマーカーで簡単に書き込むことができます。

3 保存



教科書に書き込んだ内容を保存・表示することができます。

4 機械音声読み上げ



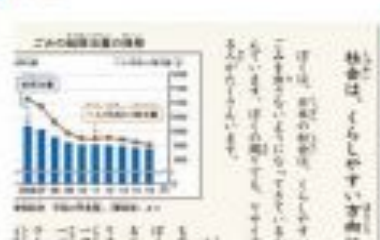
教科書の文章を機械音声で読み上げることができます。

5 背景・文字色の変更・反転



教科書の背景色、文字色を変更、反転することができます。

6 ルビ



教科書の漢字にルビを振ることができます。

## 4-4-2 学習者用デジタル教科書の共通機能の活用例

教科書の紙面にペンやマーカーで書き込むことを何度も繰り返すことを通して、試行錯誤する。

教科書の紙面から必要な文章や図表等を抜き出し、それらの関係性を書きこむことを繰り返すことを通して、試行錯誤する。

紙面を拡大して表示することで、教科書の写真資料、挿絵、地図、グラフなどの細かな部分を拡大し、様々な角度から調べる。

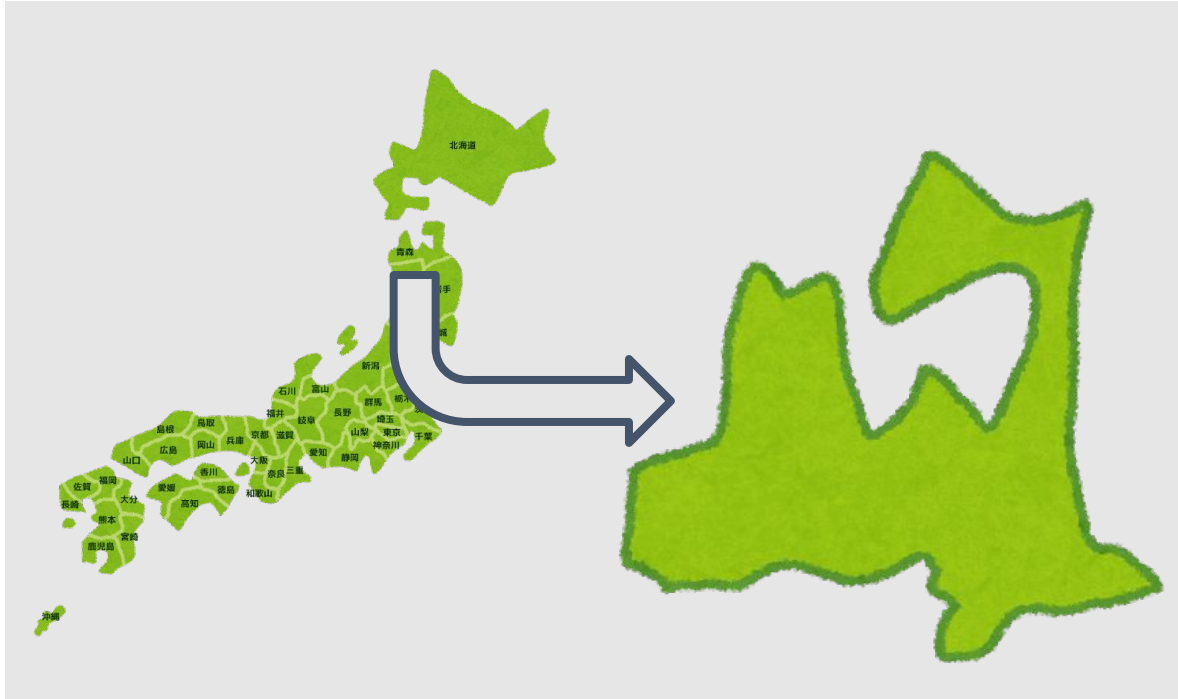
外国語のネイティブ・スピーカー等が話す音声を教科書の本文に同期させつつ使用することで、個々の児童生徒の習熟度に合わせて速度の変更や特定箇所の再生を繰り返し行う。

教科書の紙面に関連付けて動画・アニメーション等を使用することで、作図や実験等を行う際に理解できない部分を、個別に動画などで繰り返し確認する。



# 4-4-3 学習者用デジタル教科書の共通機能で広がる学びの例

## 拡大



例えば、地図帳を使って、目的とする場所を拡大して見ることができます（社会）

その他の例

- 図や表などの資料を拡大して見る（理科）
- 絵画や写真資料を拡大して見る（図画工作、美術）

## 書き込み



例えば、観察、実験の手順に、実際の操作や道具をメモしたり、作業の分担を記したりすることができます（理科）

その他の例

- 音声を聞いて気付いたことや工夫をメモする（外国語）



## 4-4-3 学習者用デジタル教科書の共通機能で広がる学びの例

### 保存



例えば、ページ内に図や映像、メモなどを保存し活用したり、自分だけの教科書をつくったりすることができます。

★デジタル教科書に保存することもできますが、今後の学びに活用するには、コピーしてスライドなどで保存することが有効です

### 読み上げ



例えば、自分でネイティブの発音に触れることができます（外国語）

その他の例

- ・ふだんは耳にしない古文に自分から親しむ（国語）
- ・自分で何度も繰り返し聴く（音楽）

## 4-4-3 学習者用デジタル教科書の共通機能で広がる学びの例

### 色の変更



例えば、文字色や背景色を変えることで、色覚等の困難さを抱える子どもが、自分のニーズに合わせて設定することができます。

### ルビ



例えば、外国につながりのある子どもや、漢字を苦手とする子どもが、自分のニーズに合わせてルビ振り機能を使うことができます。

# 4-4-3 デジタル教科書を活用した学びの事例（外国語）

## 中学校 1年 単元名：Unit 7 New Year Holidays in Japan

### 単元目標

はがきから、出来事や感想などを読み取ることができる。冬休みの出来事や感想などを伝える、はがきを書くことができる。

### 音声読み上げ機能

#### 個別

・ネイティブによる年末年始についての会話をデジタル教科書で聞く時間を3～5分設定し、**単語や表現の定着**につなげる。生徒が自らの課題や必要性に応じて主体的に学習する機会となり、学習の**自己調整**の場とすることができる。

・音読練習をする際、発音やイントネーションなどをデジタル教科書の音声で確かめながら、**自分のペース**で練習を進めることができる。



### 書き込み機能・保存機能

#### グループ

・冬休みの出来事を伝えるはがきをデジタル教科書にタッチペンを活用して書き込む。紙の教科書では書き直しが困難だが、デジタル教科書では**試行錯誤**しながら何度でも書くことができる。

・書き込んだはがき（デジタル教科書）を互いに見せ合うことで、文法上の誤りを指摘し合ったり適切な表現に気付いたりして、**学び合いの場面**を作ることができる。

・書き込みは保存されるため、学習の足跡を残すことができ、自分自身の**成長**や**変容**に気付くことができる。

